

株主通信

vol.49

RYOWA REPORT

空気と水のテクノロジー

第76期 中間期 業績のご報告

2024年4月1日～2024年9月30日

ごあいさつ／トップインタビュー	①
施工実績	④
テクノ菱和の技術の紹介	⑤
テクノ菱和のCSR	⑥
連結財務情報	⑦
会社概要／株式の状況	⑨

空気と水のテクノロジー

株式会社 **テクノ菱和**

証券コード 1965



株主のみなさまには、平素より格別なるご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、テクノ菱和グループは、このたび第76期(2024年4月1日から2025年3月31日)の中間決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。

株式会社テクノ菱和
代表取締役社長執行役員

加藤 雅也
Kato Masaya

経営理念

「空気と水のテクノロジー」を通じて環境にやさしい生活空間の創造を目指す。
環境エンジニアリングを中核事業とし、ひろくお客様から「信頼」される企業を目指す。
人材の育成・教育を重視し働き甲斐のある企業を築き、社会に貢献する。

行動規範三訓

遅しい心身の鍛錬
意志疎通の徹底
技術力の研鑽

Q 上半期の建設業界を取り巻く経営環境はいかがでしたか？

A 当中間期におけるわが国経済は、企業の賃上げによる個人消費の改善やインバウンド需要の高まりにより、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、人件費や物流コストの増加による物価高や、米国景気に対する懸念の広がりなど、依然として先行きは不透明な状況となっております。

建設業界におきましては、公共投資および民間投資ともに前年度と同水準で底堅く推移しておりますが、建設コストの高止まりに加え、資材や機器類の納期が長期化していることで工期に影響を及ぼす等、楽観できない状況も見受けられます。

Q 上半期の業績はいかがでしたか？

A 当社グループの上半期連結業績は受注高61,474百万円、売上高35,023百万円、営業利益2,215百万円、経常利益2,361百万円、中間純利益1,678百万円となりました。

当中間期の受注高は、企業の好調な設備投資意欲を背景に、半導体分野や化学薬品分野などで大型工事を受注したことに加え、一般ビル設備工事でも病院や学校等の大型工事を受注したことなどから前年同期を大幅に上回る結果となりました。

売上高については、前年度から繰り越した工事が順調に進捗したことやメンテナンス部門の売上が好調に推移したことで増収となり、利益につきましても、売上高の増加に加え原価率の低減もあり増益となりました。

中間期の業績	前中間期 (百万円)	当中間期 (百万円)
受注高	50,617	61,474
売上高	31,671	35,023
営業利益	1,423	2,215
経常利益	1,869	2,361
中間純利益	1,236	1,678

(注) 本報告書において、中間(当期)純利益は「親会社株主に帰属する中間(当期)純利益」を指します。

Q 上半期の取組みについて教えてください。

A 当社グループは、本年度から2032年度までの中長期経営ビジョンである「TECHNO RYOWA 2032」を策定いたしました。このビジョンは、成長・投資・ESGの3つをキーワードとして、財務指標だけでなく、環境問題や多様性、人的投資等の非財務情報も含めた観点から具体的な数値目標を策定しております。目標の達成を通じて、事業の成長だけでなく持続可能な社会の形成にも貢献してまいります。さらに、「TECHNO RYOWA 2032」の基本方針を踏まえ、本年度を初年度とする「中期3か年事業計画」も同時に策定しており、中長期経営ビジョンの実現に向けて段階的な目標達成を目指してまいります。

また、本年6月開催の株主総会におきまして、新たに業績連動型株式報酬制度の導入が決議されました。当制度は、毎年一定の時期に、取締役等を対象に財務・非財務両方の指標から選定した項目に対して、目標達成度合いに応じたポイントを付与し、退職時にポイントに応じた株式を支給する株式報酬制度です。制度の導入により、経営陣と株主のみなさまとの価値共有を推進し、持続的な成長を目指してまいります。

Q 下半期の見通しを教えてください。

A 下半期につきましては、所得環境の改善や、高水準な企業収益を背景に設備投資による景気下支え効果が期待される一方で、中東情勢の悪化や、中国における不動産の低迷長期化など、景気を減速さ

せる懸念が残っております。

建設業界におきましては、資材価格の上昇ペースが鈍化するとみられ、企業の設備投資意欲が維持される見通しのため、堅調に推移すると思われるものの、日本国内の人手不足による供給制約等の懸念も残っており、予断を許さない状況が続くと思われま

す。当期の連結業績見直しにつきましては、受注高89,500百万円、売上高83,000百万円、営業利益7,200百万円、経常利益7,500百万円、当期純利益5,250百万円を見込んでおります。

当期の見直し	前期末実績 (百万円)	当期末予想 (百万円)
受注高	82,797	89,500
売上高	73,688	83,000
営業利益	5,792	7,200
経常利益	6,374	7,500
当期純利益	4,506	5,250

Q 株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A 本年4月に社長に就任し、半年が経過いたしました。当中間期は前年同期を上回る業績となりました。今後の見直しにおいても手持工事が順調に推移すると見込まれ、さらにメンテナンス工事の需要が旺盛であることから、本年9月に業績予想の修正を行いました。しかしながら、建設業界全体では、就業者の減少が

著しく、現場の担い手確保に向けた対策を強化することが急務であります。当社グループといたしましては、担い手となる従業員の処遇改善・働き方改革・生産性向上に引続き取り組むとともに、協力業者に対しましても「テクノ菱和 パートナーシップ構築宣言」に則った取引を継続し、望ましい取引慣行を推進してまいります。

当期の中間配当金につきましては、1株につき50円をお支払いすることとし、年間では期末配当金50円を加えた1株につき100円とさせていただきます。当

社グループのより一層の発展に向けて、全力で取り組んでいく所存でございますので、株主のみなさまにおかれましては、今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



株式会社ニコン 本社/イノベーションセンター



概要	
完成年月	2024年5月
施工地	東京都品川区
建物用途	事務所
延床面積	42,000.00㎡
階数	地上6階
工事範囲	空調・衛生・ユーティリティ設備工事

本物件は、同社が100年以上にわたって拠点を構え、現在まで様々な製品やサービスを生み出してきた同社ゆかりの地に建設された本社/イノベーションセンターであります。本施設は、自然光や自然換気を生かした構造となっており、オフィスの稼働状況に応じて空調の風量を調節する可変風量システムの導入等と合わせ建物全体の大幅な省エネを実現し、さらに太陽光発電による創エネを組み合わせることで、環境に配慮したオフィスビルとなっております。また、建物には最高クラスの耐震構造が施されており、地震等の災害時には近隣住民の方々が避難できる仕組みも整えられております。

株式会社カナオカグラビア 埼玉第三工場B棟



概要	
完成年月	2024年7月
施工地	埼玉県羽生市
建物用途	工場
延床面積	8,394.41㎡
階数	地上3階
工事範囲	空調・衛生設備工事

本物件は、食品包装の企画・製造・販売を手掛ける同社が生産能力拡大のために増棟した工場であります。埼玉第三工場は、パッケージの印刷から製袋までの全工程を同一工場で見終らせることが可能となっており、製品の円滑な供給体制が構築されております。また、消費者に安全・安心な製品を提供するため、同工場にはクリーンルームが導入されており、大手食品会社の工場と同等の厳密な衛生管理が行われております。

神戸市役所本庁舎連絡棟



概要	
完成年月	2024年8月
施工地	兵庫県神戸市
建物用途	庁舎
延床面積	4,630.00㎡
階数	地上7階、地下2階
工事範囲	空調設備工事

本物件は、神戸市役所本庁舎と中央区役所を繋ぐ連絡棟であり、三宮地下通路から各庁舎への中継地としての役割に加え、災害発生時に対応拠点となる市役所本庁舎への安定的なエネルギー供給施設として建設されました。同施設は建物間を配管で接続し、熱エネルギーを共有することで、空調機器の運転効率を高め、省エネ・省CO₂やコスト削減を実現しております。その他に、コージェネレーションシステムを導入することで電源の多重化を図るとともに浸水対策として、電気室や機械室、防災センター等の重要設備を上層部に配置しております。

那覇第2地方合同庁舎3号館



概要	
完成年月	2024年8月
施工地	沖縄県那覇市
建物用途	庁舎
延床面積	14,768.00㎡
階数	地上9階
工事範囲	空調・給排水衛生設備工事

本物件は、災害応急対策に従事する気象台等の官署を那覇新都心へ集約することにより、災害発生時の連携および対応力を強化するための防災拠点として整備されました。施設内には、下水道断絶対策のための非常用排水槽の設置や、断水に備えた上水・雑用水の備蓄等の対策がなされております。また、同施設は、官庁施設の環境保全性基準に基づいた取組みがなされており、特に昼間の明るさを利用して照度を調節する昼光制御や、在席状況に応じて点灯・消灯する人感センサーの導入により、省エネルギー化を実現し、環境負荷を低減した施設となっております。



テクノ菱和の技術の紹介

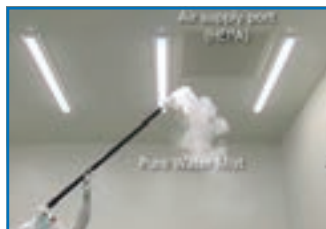
私たちテクノ菱和は「空気と水のテクノロジー」を基本理念として、お客様のニーズに応える最適な環境システムの提供を目指し、新しい技術の研究開発に取り組んでおります。今回はそのなかから、気流・微粒子可視化システム「カシカ」についてご紹介いたします。

研究開発 **カシカ** 空気は「読む」ものではありません。「見る」ものです。

当社は、目に見えない空気の流れや微粒子の動きを可視化することで、クリーンルームの性能確認や室内の問題点を把握することができるシステム「カシカ」を研究開発しております。

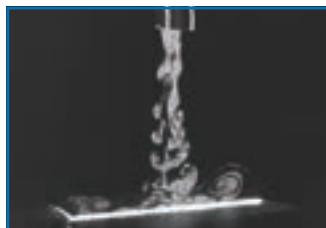
気流の「可視化」

クリーンルームの性能を確認する際には、純水をミストにしたトレーサーガス(クリーンフォグ)を使用することで、クリーンルーム内を汚さずに気流方向や空気滞留の有無などを可視化することができます。医薬品、食品などの安全性確保や電子デバイスなどの歩留まり改善が求められる製造現場においては、この技術を用いて適切な環境であることを確認します。



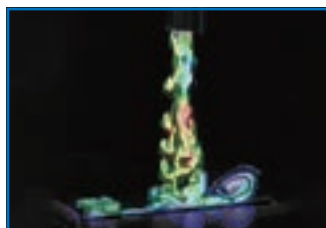
微粒子の「可視化」

通常目視できるのは10μm程度ですが、高感度カメラとレーザー光源を用いることで1μmより小さいサブミクロン粒子の可視化が可能となります。この手法により、0.3μmの粒子を捕集するHEPAフィルタの性能確認や、感染対策として、空気中に浮遊する飛沫核の挙動の確認に活用することができます。



気流速度・温度の「可視化」

カシカで撮影した動画から気流速度の解析が可能です。また、気流温度を見るために、サーマルスクリーンを使った撮影も行います。



※μm (マイクロメートル) …1mmの千分の1



テクノ菱和のCSR



私たちテクノ菱和は、すべての事業活動を通じてステークホルダーのみなさまに対して、価値を創出し信頼を獲得していくことで、社会全体とともに持続的に成長していくことを目指し、継続的なCSR活動に取り組んでおります。

統合報告書の発行

当社は昨年度まで、ステークホルダーのみなさまに向けて、非財務情報を中心としたCSR報告書を発行しておりましたが、本年度から非財務情報だけでなく財務情報も詳細に記載し、当社の全体像をより有用な形でお伝えするために、新たに「統合報告書」を発行いたしました。

この「統合報告書」では、最初にトップメッセージとして、経営ビジョンやそれを達成するための戦略について、ステークホルダーのみなさまにお伝えしております。また、テクノ菱和の価値創造プロセスや財務・非財務のハイライト情報、ESGのデータ集などの他、特集として本年1月に発生した能登半島地震への災害対応(仮設住宅の給排水外構工事)や過去の震災(阪神淡路大震災・東日本大震災・熊本地震・北海道胆振東部地震)での当社の対応を紹介しております。さらに、本年5月に発表しました中長期経営ビジョン「TECHNO RYOWA 2032」や新中期3か年事業計画についても、過去の事業計画の振り返りを含めて詳細に解説しております。

今後も、「統合報告書」を通じて当社の様々な活動をステークホルダーのみなさまにお届けいたします。



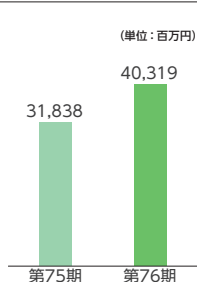
受注高	売上高	経常利益	中間純利益
61,474百万円 ＜前年同期比 21.4%増＞	35,023百万円 ＜前年同期比 10.6%増＞	2,361百万円 ＜前年同期比 26.3%増＞	1,678百万円 ＜前年同期比 35.8%増＞

受注高構成比 (総受注高に対する割合を示しています。)

産業設備工事

65.6% 40,319百万円

当中間期は、半導体分野や化学薬品分野などで大型工事を受注したことから、前年同期を上回る受注高となりました。今後も当社の得意とする産業設備工事を中心にバランスのとれた受注を推進するとともに、ライフサイクル貫ソリューションビジネスを実践し、お客様との関係強化に努めてまいります。



電気設備工事

2.1% 1,298百万円

連結子会社の松浦電機システム株式会社が、発電設備、太陽光発電やLED照明などの省エネルギー技術の提案・施工・メンテナンスを実施しております。



冷熱機器販売

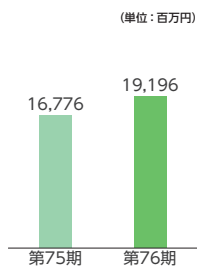
1.1% 660百万円

設備工事に関する空調機器等の販売を行っております。

一般ビル設備工事

31.2% 19,196百万円

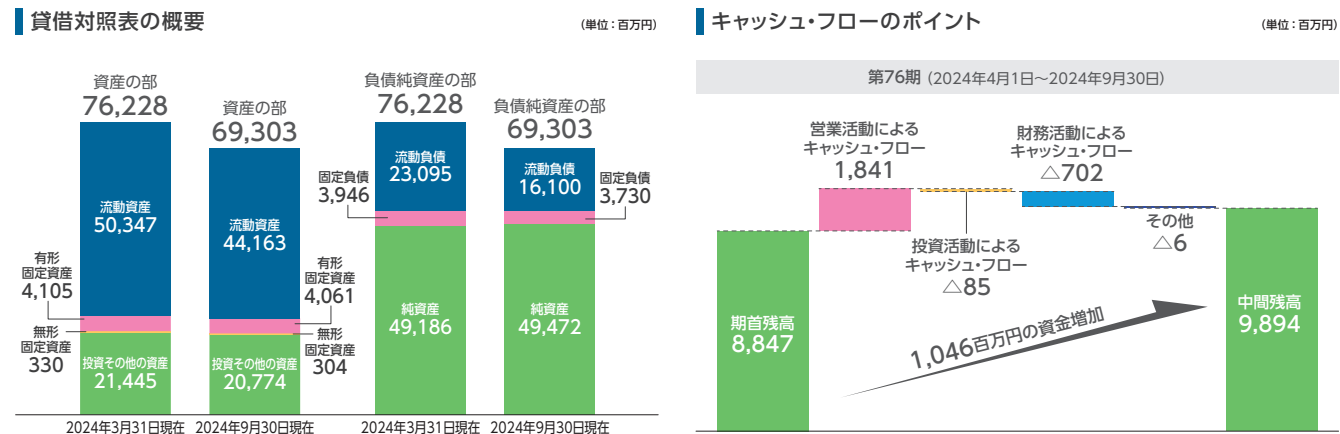
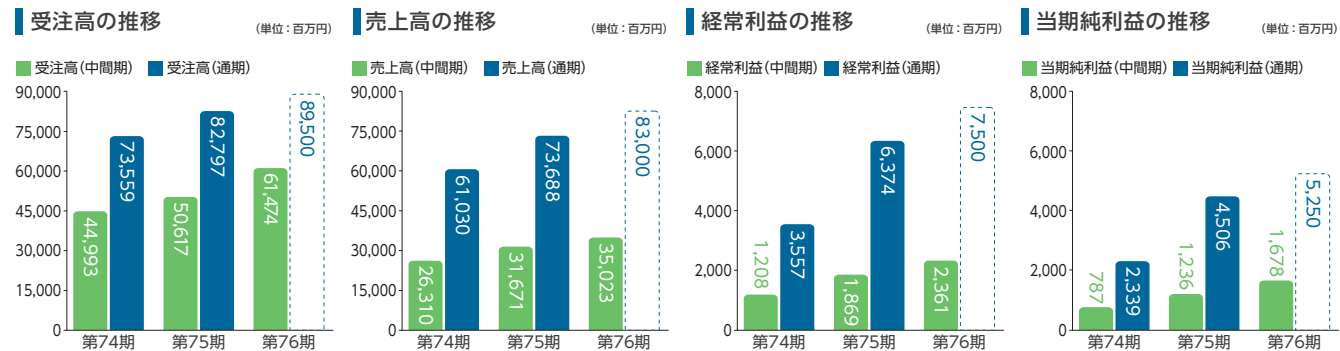
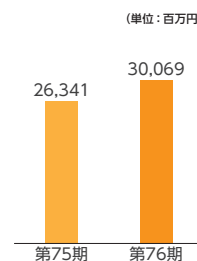
当中間期は、病院や学校等の大型工事を受注したことなどから受注が堅調に推移し、前年同期を上回る受注を確保できました。今後も継続的な設備の更新需要を取り込むとともに、学校や病院をはじめとするインフラ需要にも対応し、受注拡大に努めてまいります。



設備改善工事

48.9% 30,069百万円

施設のロングライフ化に貢献するメンテナンス工事と経年劣化した設備の機能回復や、より効率的なシステムへの見直しを図るリニューアル工事を中心とした事業分野です。



財務のポイント

<p>資産の部</p> <p>流動資産における現金及び預金の増加10億円、受取手形・完成工事未収入金等の減少47億円、電子記録債権の減少32億円、固定資産における退職給付に係る資産の増加1億円、投資有価証券の減少8億円を主な変動要因として、前期末と比較して69億円減少し、693億円となりました。</p>	<p>負債の部</p> <p>流動負債における賞与引当金の増加1億円、支払手形・工事未払金等の減少30億円、未払消費税等の減少22億円、未払法人税等の減少7億円、固定負債における繰延税金負債の減少1億円を主な変動要因として、前期末と比較して72億円減少し、198億円となりました。</p>	<p>純資産の部</p> <p>利益剰余金の増加10億円、その他有価証券評価差額金の減少5億円、退職給付に係る調整累計額の減少1億円を主な変動要因として、前期末と比較して2億円増加し、494億円となりました。自己資本比率は前期末と比較して6.9ポイント上昇して71.4%となりました。</p>	<p>キャッシュ・フロー</p> <p>税金等調整前中間純利益の計上による資金増加24億円、売上債権の減少による資金増加80億円、仕入債務の減少による資金減少31億円、未払消費税等の減少による資金減少22億円を主な変動要因として、現金及び現金同等物は前期末と比較して10億円増加し、98億円となりました。</p>
---	---	---	---

詳しい情報はウェブサイトへ

テクノ菱和 検索

会社概要 (2024年9月30日現在)

商号 株式会社テクノ菱和
(英文表記 TECHNO RYOWA LTD.)

設立 1949年12月23日

資本金 2,746,800,000円

上場 東京証券取引所スタンダード市場

従業員 814名 (連結945名)

本社 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号

登記上の所在地 東京都港区芝大門2丁目12番8号

事業内容 当社グループは、産業用空調、冷暖房、給排水、衛生、電気設備等の設計・施工管理といった設備工事業ならびにそれらに付帯する業務を行っております。お客様のビジョンの実現に向けた計画提案、設計、施工、設備診断、アフターメンテナンスといったワンストップサービスを通じて、お客様を総合的にサポートしてまいります。

- 産業設備関連事業
- 太陽光発電事業
- 一般ビル設備関連事業
- 不動産賃貸事業
- 電気設備工事業
- 保険代理業
- 冷熱機器販売事業

主な事業所

技術開発研究所(神奈川県横浜市)	名古屋支店(愛知県名古屋市)
東京本店(東京都豊島区)	静岡支店(静岡県静岡市)
東関東支店(茨城県土浦市)	大阪支店(大阪府大阪市)
北関東支店(埼玉県さいたま市)	中国支店(岡山県倉敷市)
東北支店(宮城県仙台市)	九州支店(福岡県福岡市)
横浜支店(神奈川県横浜市)	海外事業部(東京都豊島区)

役員 (2024年12月1日現在)

取締役

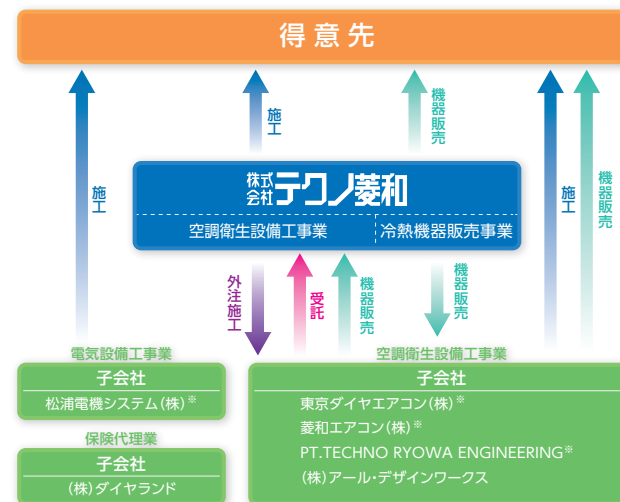
代表取締役会長	黒田 英彦
代表取締役	加藤 雅也
取締役	大石 勉
取締役	袴田 一博
取締役	鈴木 俊夫
取締役(社外)	田中 雅敏
取締役(社外)	佐古 麻衣子
取締役常勤監査等委員	常木 茂
取締役監査等委員(社外)	小坂井 千春
取締役監査等委員(社外)	大島 浩司

執行役員

社長執行役員	加藤 雅也
専務執行役員	大石 勉
専務執行役員	袴田 一博
上席執行役員	黒田 長憲
上席執行役員	窪 和敏
上席執行役員	福士 富三
上席執行役員	鈴木 俊夫
上席執行役員	齋藤 吉信
執行役員	堀下 浩
執行役員	武石 義人
執行役員	武田 和夫
執行役員	水野 則康
執行役員	大塚 弘之
執行役員	菊池 智克
執行役員	森 茂樹

企業集団の状況 ※連結子会社

東京ダイアエアコン株式会社*	PT.TECHNO RYOWA ENGINEERING*
所在地 東京都新宿区	所在地 インドネシア共和国
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
菱和エアコン株式会社*	株式会社アール・デザインワークス
所在地 愛知県名古屋市	所在地 大阪府大阪市
主要な事業の内容 空調衛生設備工事業	主要な事業の内容 空調衛生設備工事業
松浦電機システム株式会社*	株式会社ダイヤランド
所在地 大阪府守口市	所在地 東京都港区
主要な事業の内容 電気設備工事業	主要な事業の内容 保険代理業



株主優待制度のお知らせ

当社株式を決算期末日に100株以上ご所有の株主様に静岡の新茶をプレゼントいたします。

ご優待内容

ご所有株式数1,000株以上	静岡の新茶2パック贈呈
ご所有株式数100株以上1,000株未満	静岡の新茶1パック贈呈

ご優待品「特選茶」

株式の状況 (2024年9月30日現在)

発行済株式の総数 22,888,604株

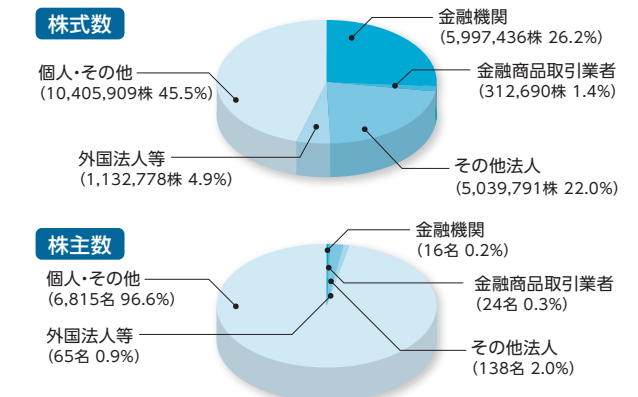
株主数 7,058名

大株主 (2024年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
テクノ菱和取引先持株会	2,202	10.3
三菱重工サーマルシステムズ株式会社	1,424	6.7
株式会社三菱UFJ銀行	971	4.5
株式会社みずほ銀行	971	4.5
テクノ菱和従業員持株会	739	3.4
株式会社名古屋銀行	738	3.4
明治安田生命保険相互会社	734	3.4
東京海上日動火災保険株式会社	725	3.4
株式会社京葉銀行	723	3.4
重田康光	640	3.0

※当社は、自己株式1,669,163株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には役員報酬BIP信託および株式付与ESOP信託が保有する当社株式は含まれておりません。

株式の分布状況 (2024年9月30日現在)



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会 3月31日
 期末配当金 3月31日
 中間配当金 9月30日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

単元株式数 100株
公告掲載URL <https://www.techno-ryowa.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。)

諸手続き
お問い合わせ先 【住所変更、買取請求その他各種お手続きについて】
●証券会社をご利用の株主様
お取引の証券会社等にお問い合わせください。
●特別口座に記録された株式をご所有の株主様
特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
【株主総会資料に関する書面交付請求について】
株主総会資料は電子提供措置をとっておりますので、書面での送付をご希望の場合は、三菱UFJ信託銀行またはお取引の証券会社等を通じて、「書面交付請求」のお手続きを行ってください。
【未受領の配当金について】
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係のお手続きの際に必要となります。なお、株式に関するマイナンバーの詳細につきましては、口座を開設されている証券会社等へお問い合わせください。

特別口座をご使用の株主様へ お早めに株式をお振替えください

特別口座に記録されている株式は、証券市場での売買を行うことができません（単元未満株式は除く）。また、特別口座で管理されている株式は相続や贈与時のお手続きが煩雑になってしまいます。

ご所有の株式が特別口座に記録されている場合は、証券会社等に一般口座を開設し、特別口座から株式をお早めにお振替えください。詳しいお手続きにつきましては三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

お手続き	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711 (通話料無料)

株式会社 **テクノ菱和**

<https://www.techno-ryowa.co.jp/>

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2丁目26番20号

お問い合わせ TEL: 03-5978-2541



環境に優しい植物油インキ
を使用して印刷しています。

UD
FONT

